



一般社団法人 日本物流団体連合会
Japan Association for Logistics and Transport

〒100-0013
東京都千代田区霞が関 3 丁目 3 番 3 号
全日通霞が関ビル 5 階
TEL: 03-3593-0139
FAX: 03-3593-0138
URL: www.butsuryu.or.jp

News Release

2026 年 8 月 31 日

「AI の利活用に関する意識調査アンケート」調査結果について

（一社）日本物流団体連合会は、2026 年 5 月下旬から 6 月末にかけて、今般、物流業界にも波及しつつある AI の活用状況や今後の見通し、AI に対する意識の持ち方等について、物流連会員企業をはじめ広く物流業界全般にご協力いただき、Web によるアンケート調査を実施しました。

今般、別紙のとおり、調査結果をとりまとめましたのでお知らせします。

【調査の概要】

(1) 本調査について

- 調査時期：2026 年 5 月下旬～6 月末
- 調査対象：物流連の正会員企業・団体、それ以外の物流関連企業
- 回答数：231 社（一部重複あり）

(2) 回答者の属性

- 主な事業領域（事務局で分類）について
実運送事業：44%、倉庫事業：26%、利用運送事業（フォワーディング等）：16%。物流業界全般から幅広くご回答頂いた

(3) 調査結果の概要

物流業界における AI 活用の重要性に関する認識は全領域で非常に高く、89%の企業が重要課題（最優先、重要または中長期的な課題）と捉えている。しかし、実際に全社的に AI を導入している割合は 16%（一部導入を含めた場合は 37%）にとどまり、認識と実態との間に顕著なギャップが存在することが判明した。（文章・画像などを生み出す）生成 AI などによる事務処理業務への活用は比較的導入が進んでいる一方で、配車最適化や倉庫オペレーションなど物流事業のコア業務への導入は試行段階であることが伺える。

活用に当たっての最大の障壁は「教育・研修の不足」であり、「人材不足」「コスト」「データ不足」と続いた。加えて「具体的事例の不足」「費用対効果の見えづらさ」についても多くの回答があった。また、事例共有、業界共通プラットフォーム・データ標準化、ガイドライン策定に関しては、個社での単独対応には限界があるという認識を持つ企業が多くあった。

担当：神谷

物流業界における AI 活用状況の現状と課題・方向性

■ アンケートの概要

【はじめに ～ 調査の背景】

AI 技術は、ここ数年で長足の進歩を遂げており、物流業界においてもその活用は喫緊の課題となっている。しかしながら業界全体として、どの業務に、どのように、どの程度活用されているのかといった現状や意識に関して、客観的な調査はされていなかった。

今後、AI 技術を活用していくにあたり、多様な業種で構成され事業規模も幅広い、物流業界全体の意識について、課題や問題意識を含めてアンケート形式で客観的に調査し、結果を共有していくことが、その活用や普及にあたっての基礎資料となると考え、この調査を実施することとした。

【参考】調査概要

- （1） 調査実施期間：2026 年 5 月下旬～6 月末
- （2） 調査対象：（一社）日本物流団体連合会 会員企業・団体、およびそれ以外の物流企業
- （3） 回答数：231 社・団体

■ 調査結果

【全体要約】

物流業界における AI 活用の重要性に関する認識は全領域で非常に高く、89%の企業が重要課題(最優先、重要または中長期的な課題)と捉えている。しかし、実際に全社的に AI を導入している割合は 16% (一部導入を含めた場合は 37%) にとどまり、認識と実態との間に顕著なギャップが存在することがわかった。文章・画像などを生み出す生成 AI などによる事務処理業務への活用は比較的導入が進んでいる一方で、配車最適化や倉庫オペレーションなど物流事業のコア業務への導入は多くなく、試行段階であることが伺える。

最大の障壁は「教育・研修の不足」であり、次点以降は「人材不足」「コスト」「データ不足」と続いていく。加えて「具体的事例の不足」「費用対効果の見えづらさ」についても多くの回答があった。事例共有、業界共通プラットフォーム・データ標準化、ガイドライン策定に関しては、個社での単独対応には限界があるという認識を持つ企業が多かった。

1. 回答企業【Q1】

回答企業の詳細は、以下の通り。

■ 所属団体・企業規模の分布	■ 主な事業領域（事務局で分類）の分布
● 所属団体: ① 物流連正会員団体の会員企業(61%)、② 物流連の正会員(31%)、③ ①又は②の正会員企業のグループ・関係会社(5%)など。 ● 人員規模: 51~300 人(40%)、~50 人(29%)、1000 人以上(19%)、301~1000 人(12%)。中小規模から大企業までバランスよくご回答いただいた。	● 実運送事業(44%): 陸運(15%)、海運(27%) ; うち内航 23%、外航 4%、鉄道(2%)など。 ● 関連物流事業(56%): 倉庫(26%)、フォワーディング(16%)、3PL(8%)、物流不動産(1%)など。

2. AI に対する認識・戦略【Q2】

AI 導入に対する高い意思と、実際の組織体制や導入レベルとの間にギャップがある。

- **重要度認識と推進体制**
最優先課題(34%) と重要な課題(28%)を合わせ 62%が 2-3 年以内に取り組むべき重要課題と位置付けている。一方、全社的に基本方針を策定し組織全体で推進している企業は 18%に過ぎず、方針なし(50%) や基本方針はあるが各部署単位での推進(16%)が大部分を占める。
- **活用目的・外部要請・競争圧力**
主な活用目的は既存業務の省人化・省力化(25%)、人手不足対応(24%)、コスト削減(19%)、品質向上(17%)となっている。また「省人化・省力化の観点から AI 導入の必要を迫られているか」という設問には、67%の企業が「AI 導入を迫られている/近い将来迫られる」と回答した。一方、取引先からの要請は現時点で 1%だが、20%が近い将来要請されると予測している。

【Q3-1】でAI導入状況について質問し、その回答により、【Q3-2】から【Q5-3】までのアンケート結果については、必要に応じて「AI導入済」グループのみ、もしくは「AI導入済」と「AI未導入」グループを合計して分析している。

3. AI導入状況【Q3】

【AI導入済グループ】のみ分析 「全社導入(16%)」「一部導入(21%)」「実証実験中(15%)」計52%が対象。

実際のAI導入領域は事務的業務が最多(複数回答)である。投資額や、導入レベルについては、様々な段階の回答が見られた。

57%	46%	68%
導入済みAI領域 生成AIによる業務・データ管理	一定規模の投資規模 1億円以上7% 1,000万円超1億未満12% 100万円超1,000万円未満27%	導入効果の実感割合 期待以上8% 概ね期待通り60%

- 導入済み領域: 生成AI(事務・データ管理効率化等: 57%)が最多。配車最適化(12%)、画像認識(11%)、需要予測(6%)、倉庫オペレーション(4%)などの物流コア業務への導入は限定的。
- 投資規模と導入効果: 年間投資額は100万円以上の投資を行っている企業が約5割、100万円以下も含めれば約8割が何等かの投資を行っている。導入効果の実感については、約7割が導入した効果を実感しているが、AI導入の課題(Q5)として「効果が見えにくい(12%)」ことが具体的な費用対効果を試算する上での障害となっている。

4. AI活用事例に関する自由記述【Q4】

231回答中、有効回答が16回答のみであり、分析することが困難であったため、今回、分析対象からは外している。

5. AI導入の課題【Q5】

【AI導入済グループ】と【AI未導入グループ】を合計して分析

AI導入済・未導入グループに係わらず、人材・教育基盤の欠如や、コスト、費用対効果の不透明感が課題。

■ 主な導入課題（複数回答） AI導入済・未導入の両方について分析 - 教育・研修制度の不足(約3割): AIの導入・未導入に係わらず最大のボトルネック。使いこなす知見が不足。 - 人材不足(約2割): 社内に専門人材・専任担当者が不在。 - コスト/データ不足(約1.5割): 投資回収見込みや判断データの不足。 - 効果の見えづらさ(約1割): 費用対効果の試算難易度の高さ。	■ 社内人材と外部パートナー - AI人材充足度: AIを未導入と回答した企業の約8割が不足(決定的に不足:48%、やや不足:36%)していると回答。一方で、AI導入済の企業も約7割が不足(決定的に不足:20%、やや不足:53%)と回答しており、AI人材については全般的に不足感が大きい。 - 外部パートナー: 導入済みグループでは61%(全面活用:5%、部分活用:32%、アドバイザー活用:24%)が何らかの形で活用している。
--	---

6. AI エージェント(※)に対する将来認識【Q6】

【Q6】以降、全体回答結果を基に分析

- **AI エージェント・自動化推進の影響:**「事務作業・調整業務の自動化による労働力不足解決(30%)」「リアルタイム分析による配車・在庫精度向上(14%)」とポジティブな受け止めが多数。一方で「人の役割が管理・承認へと変化(17%)」「AI の判断ミスやセキュリティ・責任 の所在の懸念(17%)」といった変化への備えも意識されている。
 - **自動化期待領域:** 配車(21%)、受発注(23%)、在庫管理(20%)、顧客対応(16%)など、現場のオペレーション業務全般において高い自動化ニーズが示された。
- (※) AI エージェントとは、人間が細かい手順を指示しなくても、与えられた目標を達成するために自ら計画を立て、外部ツールやシステムを自動で使い分けてタスクを最後まで遂行する自律型のソフトウェアを指す。

7.自由記述（Q7-3）要約（全体およびテーマ別）

【全体】

自由記述内の有効回答(約 150 件)の分析により、選択式回答の背景にある課題の詳細や回答者の声が示された。最も多く寄せられたのは、「他社の具体的事例や成功事例を知りたい」「研修や勉強会など学ぶ機会を提供してほしい」という声であった。AI 活用への関心や人手不足(ドライバー・船員・現場作業員等)対策への期待は非常に高いものの、具体的な導入手順やコスト対効果が見えず試行錯誤している実態が窺える。

また「個社での取り組みには限界がある分野」として、業界全体の AI に関するデータ標準化、共通プラットフォーム整備、セキュリティガイドラインの策定を求める意見が多く寄せられた。さらに「AI 活用以前に旧態依然とした紙ベースでの業務やアナログプロセスからの脱却(データ整備・DX 活用)が先決である」という指摘や、「AI はあくまで人間の判断を補助するツール」という前提に基づく適切なルール形成を求める声も集まった。

【テーマ別】構成割合及び主な意見は事務局にて分類

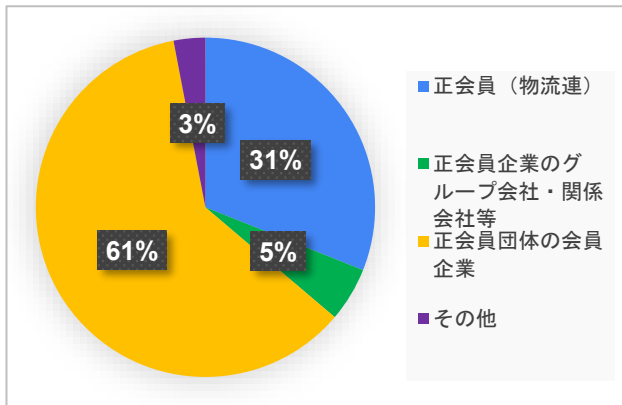
順位	テーマ分類(グループ)	構成割合	主な意見(要点)
1	事例共有・情報提供・研修	24%	物流業界に特化した具体的事例・成功事例の共有、勉強会・セミナー・見学会の開催、補助金情報の提供要望。
2	AI活用推進・高い期待	20%	人手不足対応・生産性向上・競争力維持にAIは今後必須。生き残りのため積極的に推進すべきとの認識。
3	業界標準化・共通基盤整備	15%	単独企業では資金・人材に限界。業界共通プラットフォーム構築、データ連携・標準化、共同実証の必要性。
4	導入検討・模索段階	13%	必要性は感じるが、具体的に自社でどう活用できるか不明。費用対効果や活用領域が見えず手探り状態。
5	人材育成・AIリテラシー	10%	AI人材および業務変革(DX)を推進できる人材の致命的不足。業界全体での体系的な育成スキームが必要。
6	データ整備・DX基盤	7%	AI導入の前に、紙業務の廃止や旧態依然とした業務プロセスの変革、上流から下流へのデータ整備が不可欠。
7	ガイドライン・セキュリティ	6%	情報漏洩リスクや利用ルールの不透明さに対する懸念。業界統一のセキュリティガイドラインや制度支援。
8	人手不足対策・自動化	3%	ドライバー・船員不足解消に向けた自動運転・自動運航・AI×ロボット等フィジカルAIの現場適用への期待。
9	AI依存懸念・人間主体	2%	AIへの過度な依存を避け、最終判断は人間が行うべき。人の思考力を低下させない使い方の徹底。

※本報告書は日本物流団体連合会が2026年5月下旬～6月末までに実施した、「AIの利活用に関する意識調査アンケート」へのご回答を元に作成しています。

【別紙】A I の利活用に関する意識アンケート調査結果一覧

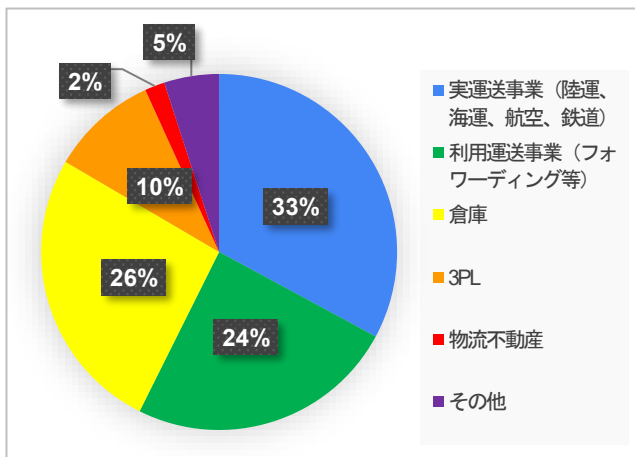
■ 回答企業

総回答数 231 社

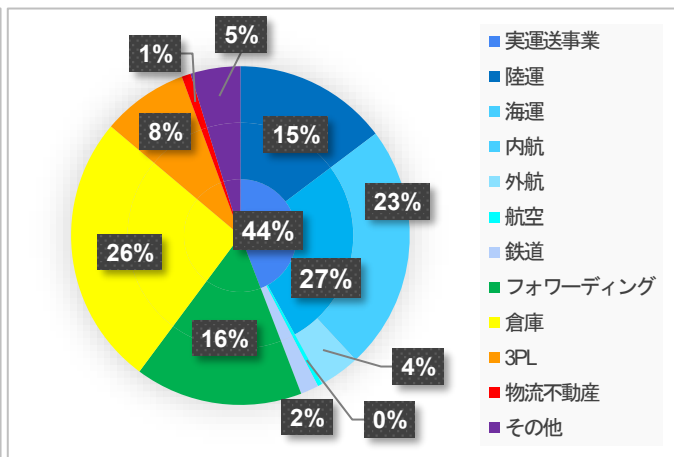


■ Q1-1. 回答企業の主な事業領域

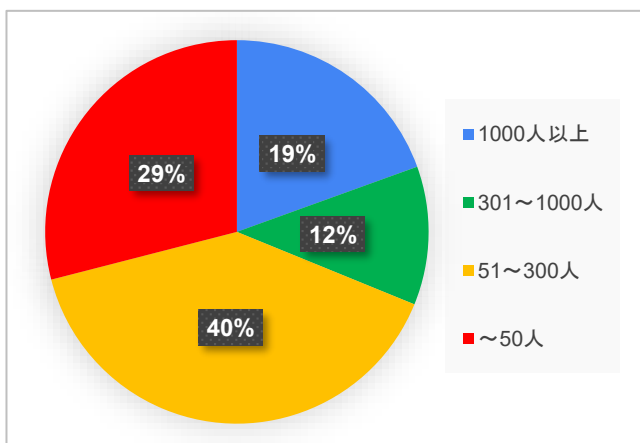
複数回答結果（総回答数：441, 平均回答数 1.9）



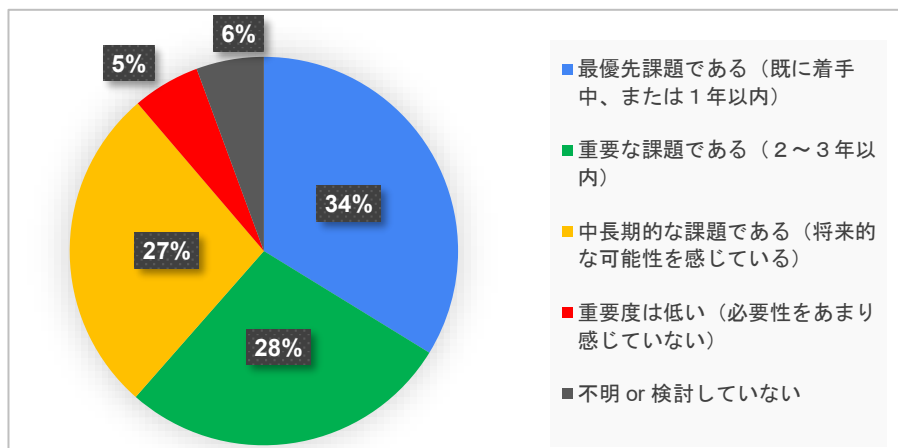
各社単一事業に限定した場合（物流連仕分け）



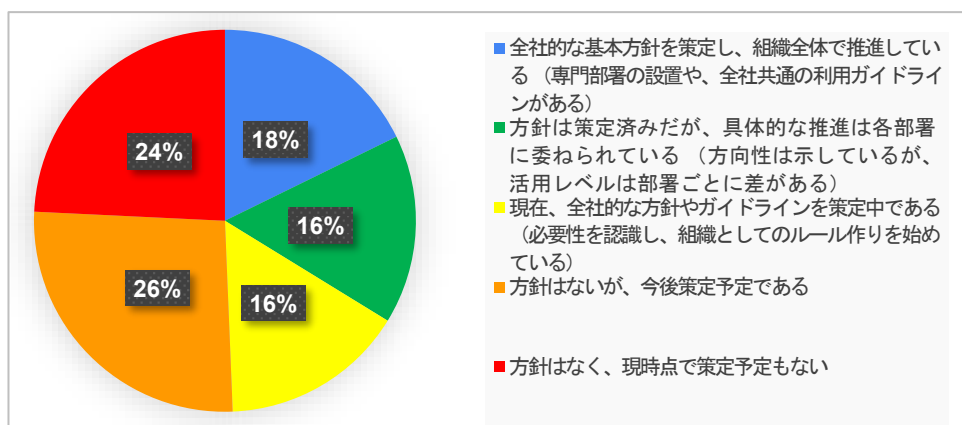
■ Q1-2. 従業員数



■Q2-1. AI 活用の重要度

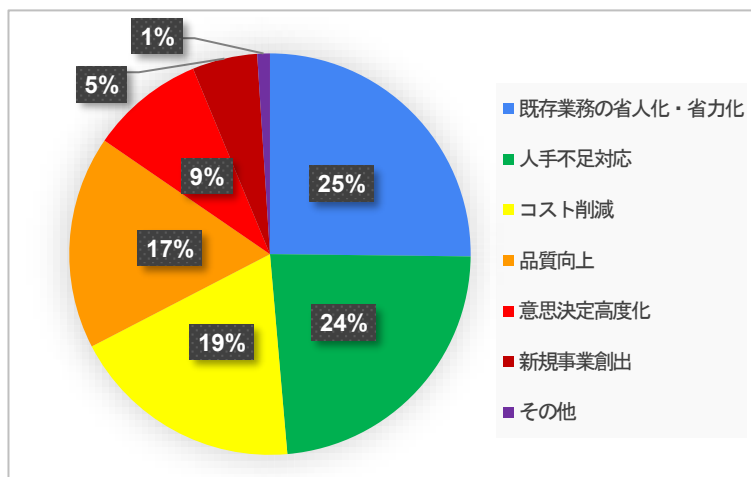


■Q2-2. AI 活用の全社方針

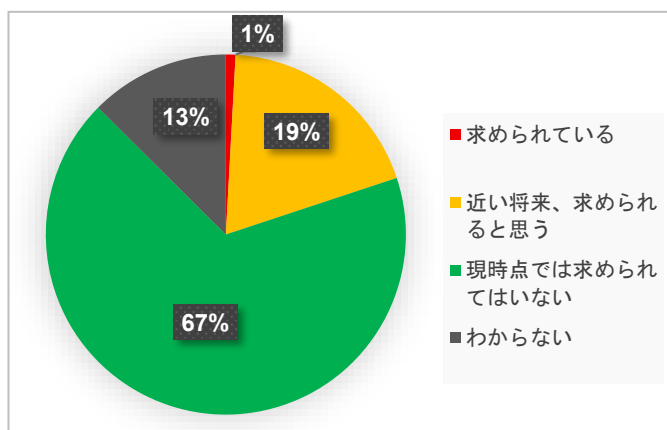


■Q2-3. AI 活用の主な目的

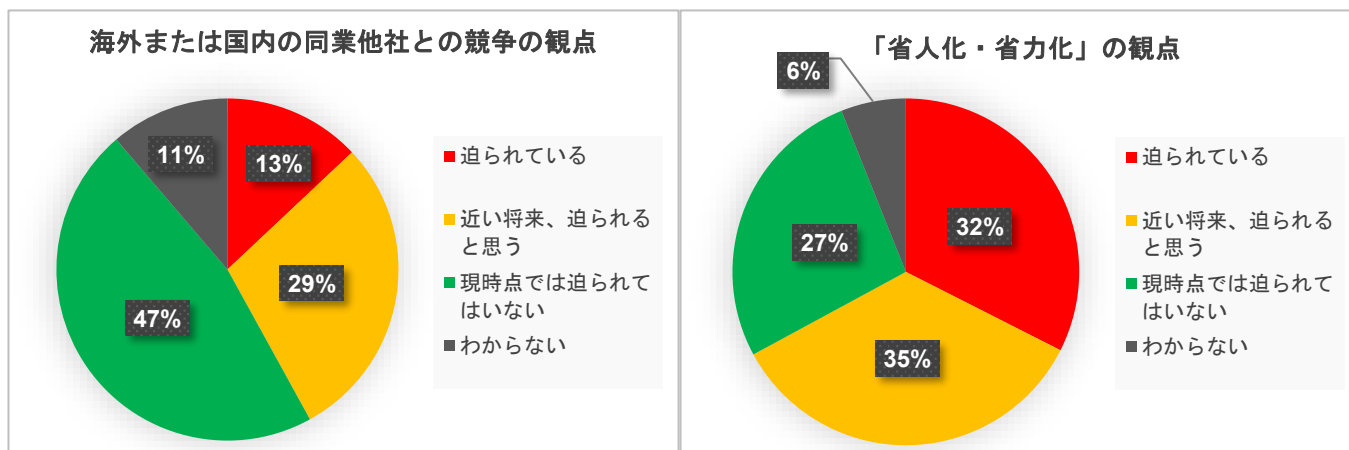
複数回答結果（総回答数：687,平均回答数 3.0）



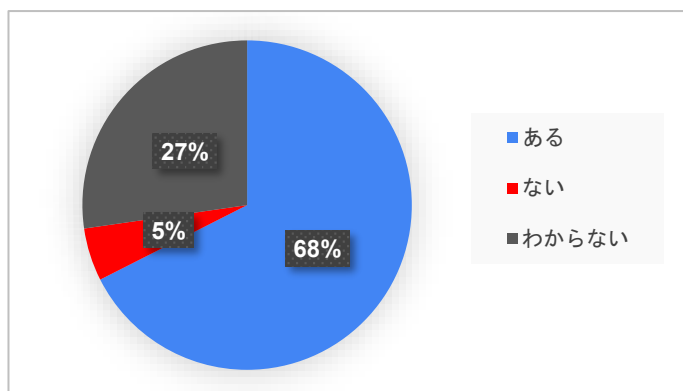
■Q2-4. 荷主・取引先から AI の導入・対応を求められているか？



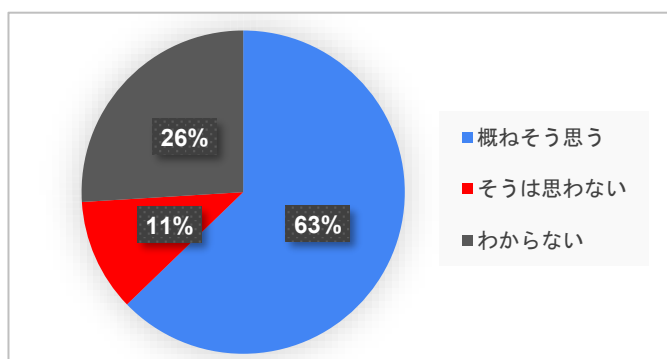
■Q2-5,Q2-6. AI 導入の必要に迫られているか



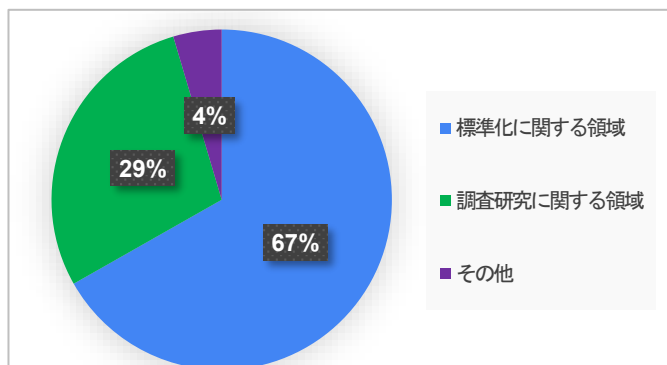
■Q2-7. AI 導入によるコストダウンのチャンスはあるか



■Q2-8. AI の導入・対応は業界で協調して進めていくべきで、「協調領域はある」と思うか

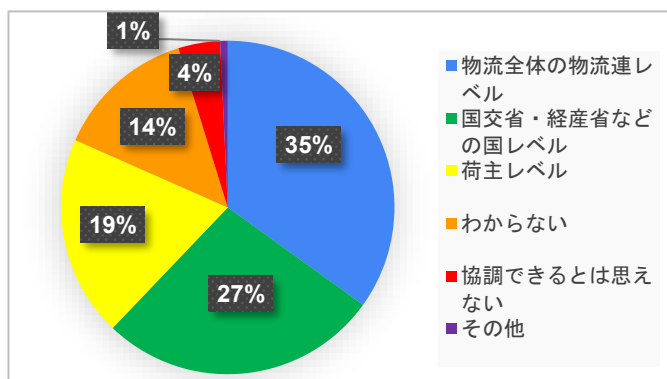


■Q2-9. 業界内に AI の導入・対応の協調領域があるとすれば、それは何か

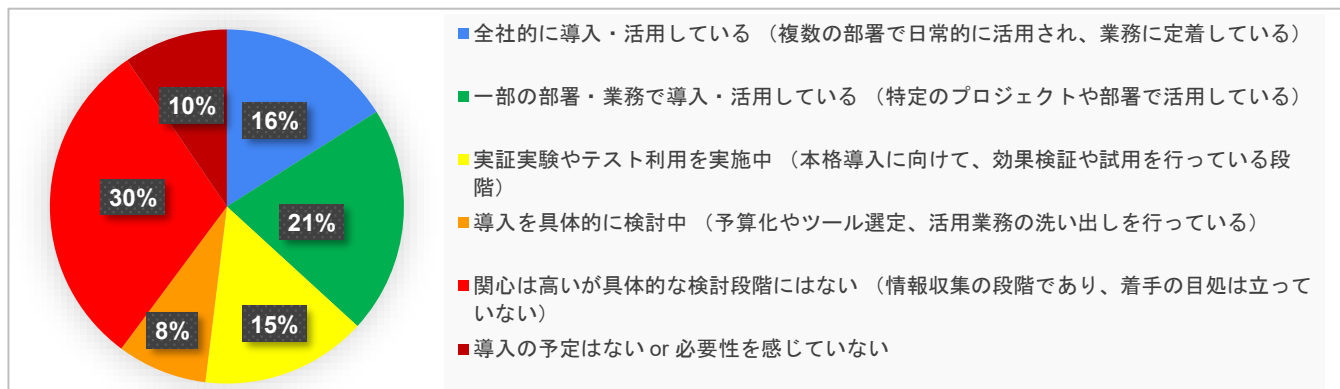


■Q2-10. AI の導入・対応について協調するとすれば、どのレベルか

複数回答結果（総回答数：272,平均回答数 1.2）



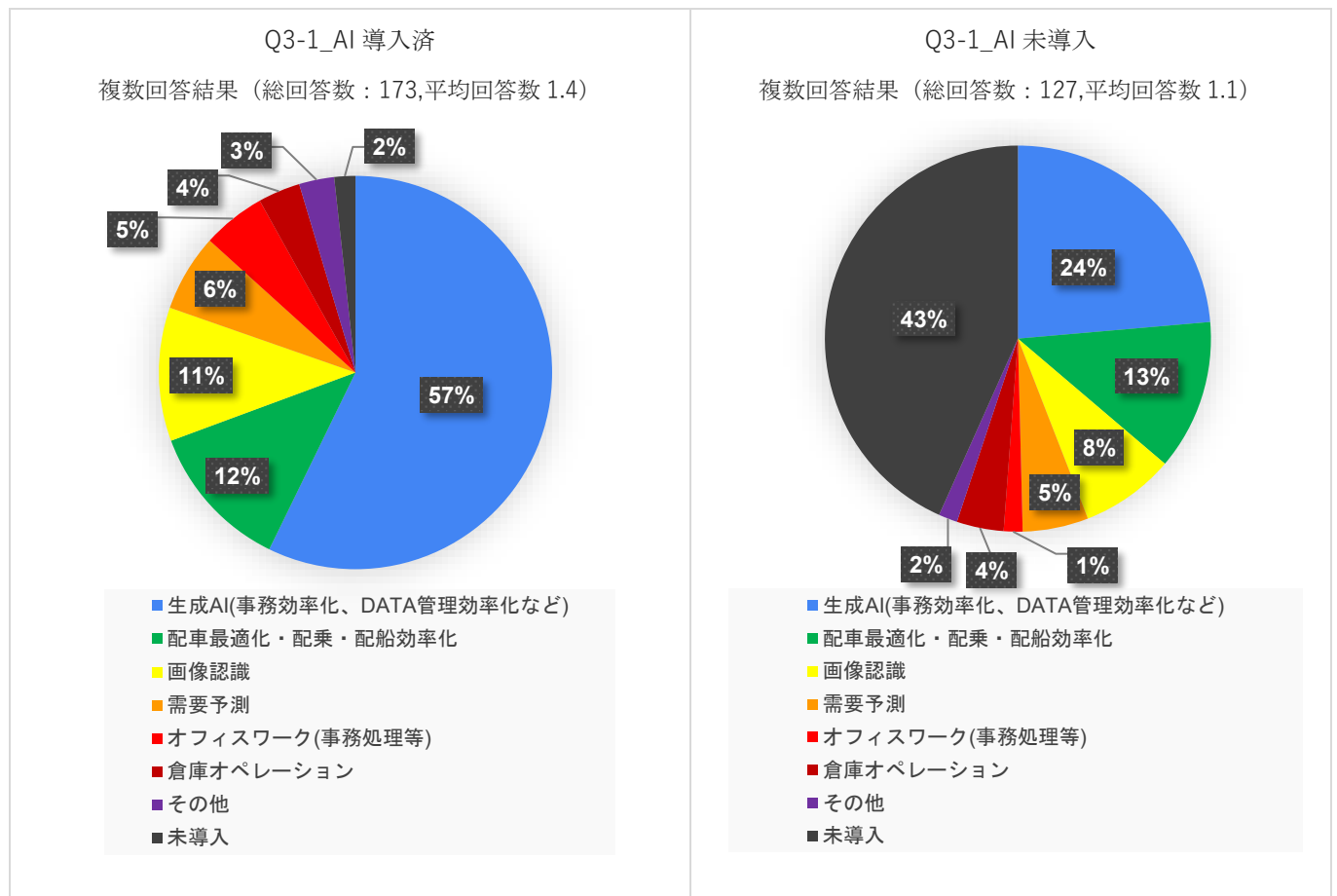
■Q3-1. AI 導入状況



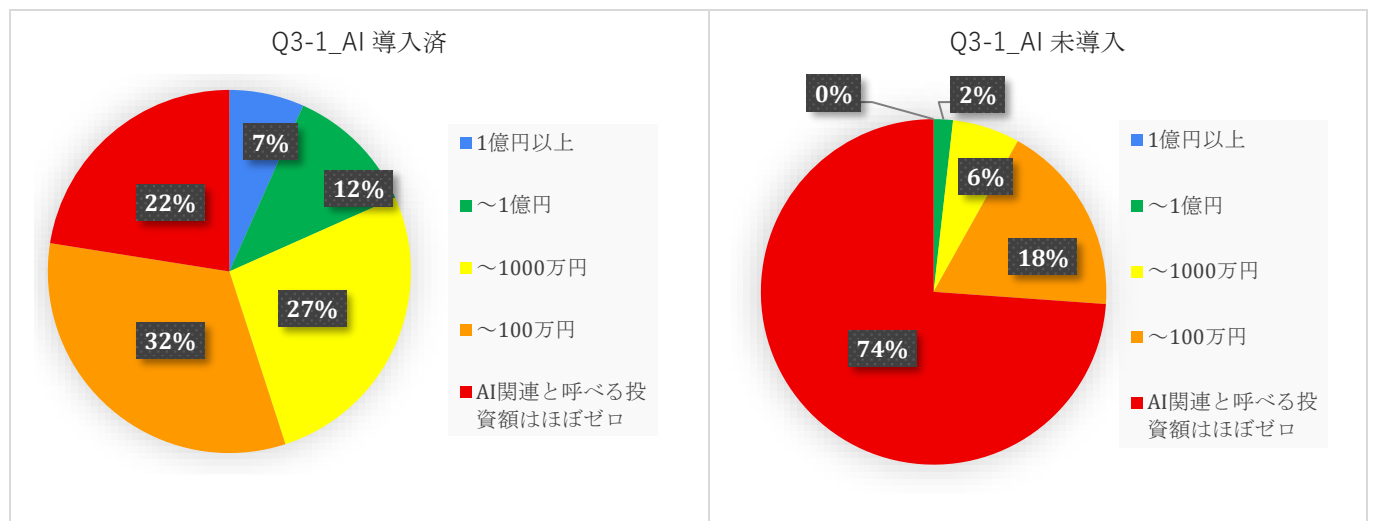
以降、Q3-2 から Q5-3 までのアンケート結果については、Q3-1 の回答が「全社的に導入」「一部で導入」「実証実験中」を「AI 導入済」グループとし、「導入を検討」「関心はある」「導入予定なし」を「AI 未導入」グループとしてグルーピングし、集計結果を対比しております。

Q6 以降は、Q3-1 までと同様にグルーピングは行わず、全体回答の結果を表示しております。

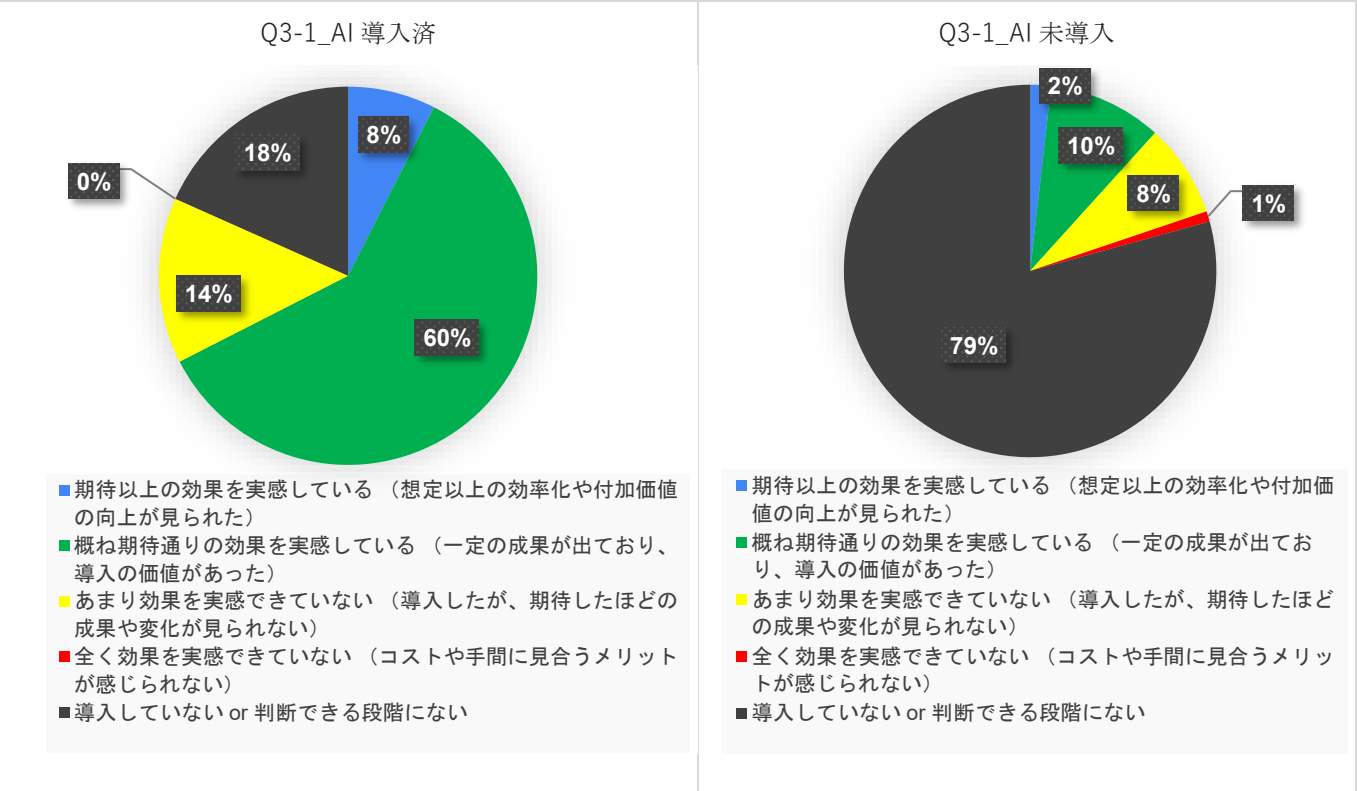
■Q3-2. 導入済み AI 領域



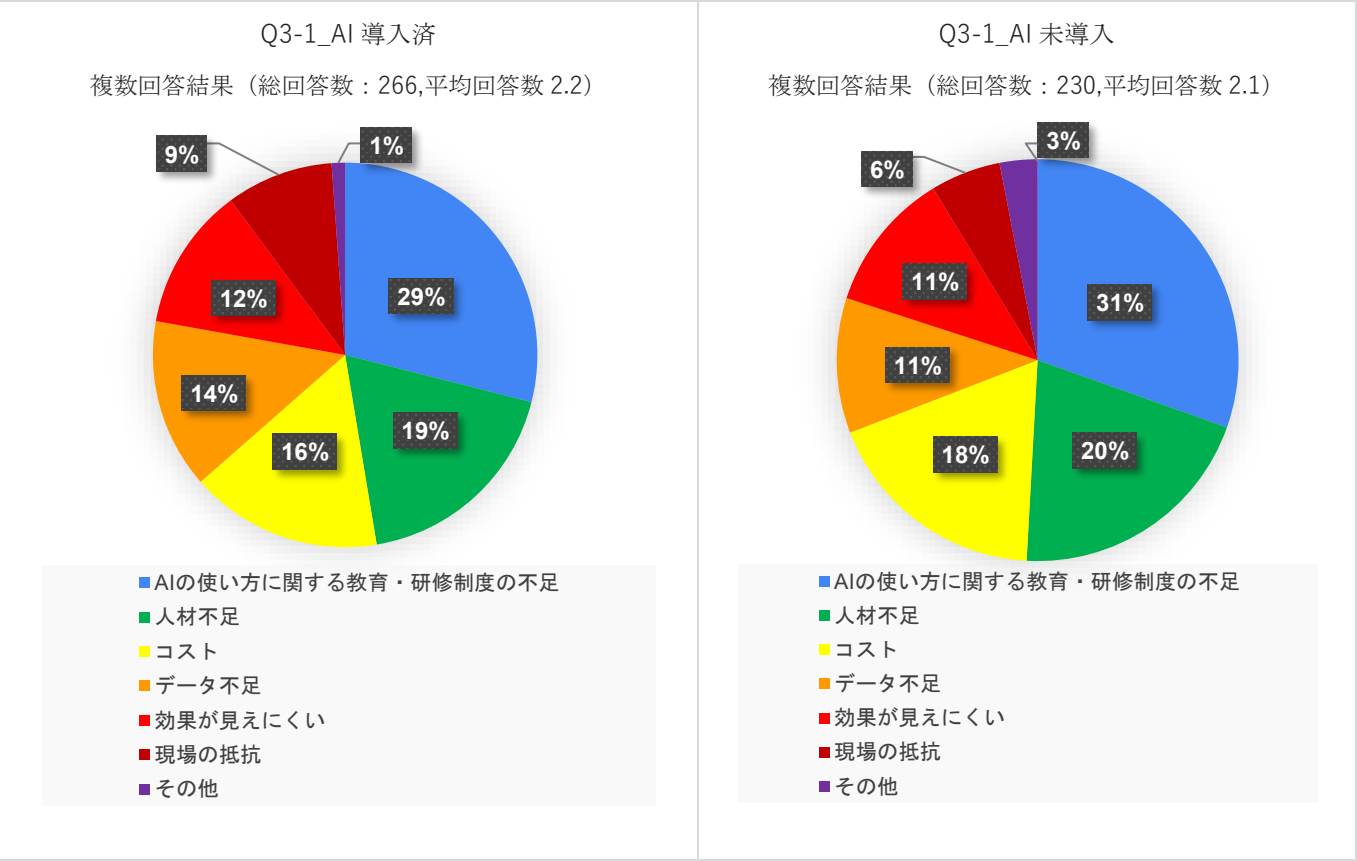
■Q3-3. AI 関連年間投資額



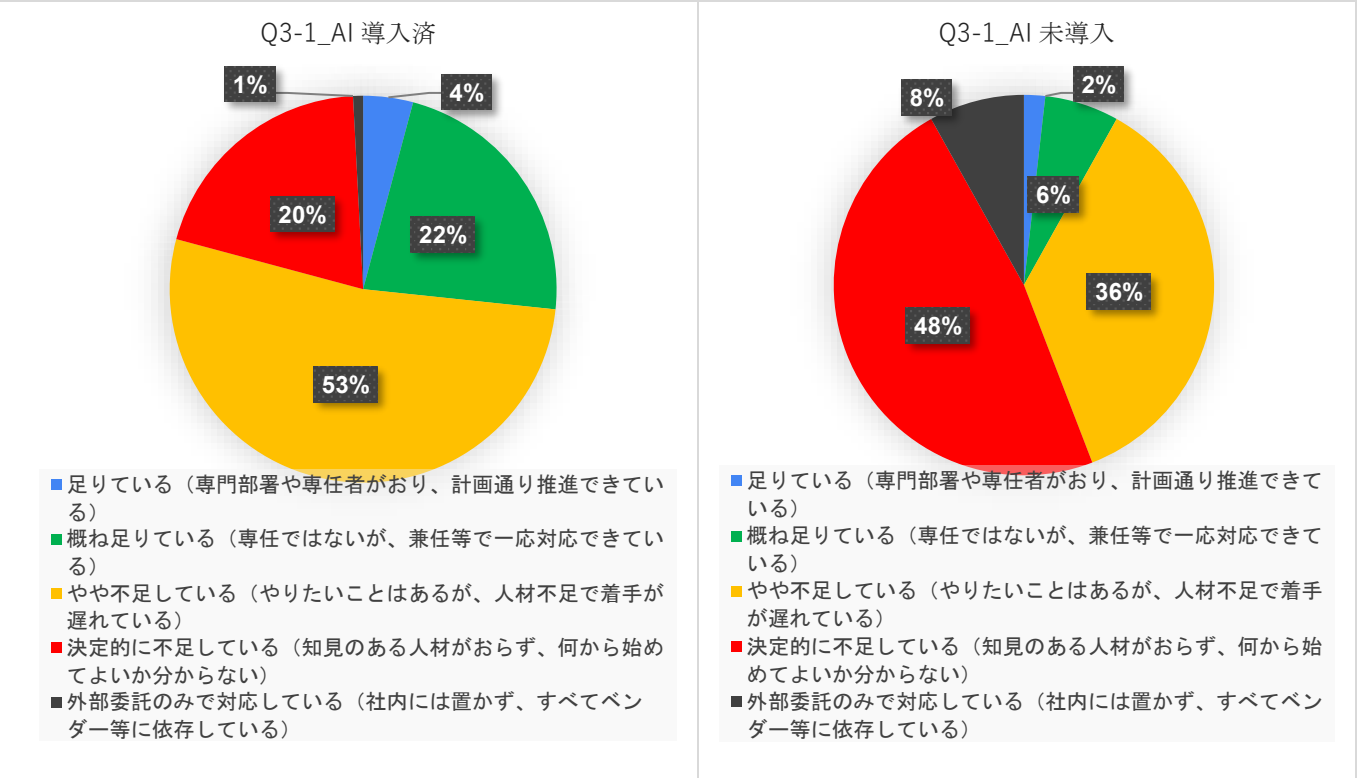
■Q3-4. AI 導入効果の実感



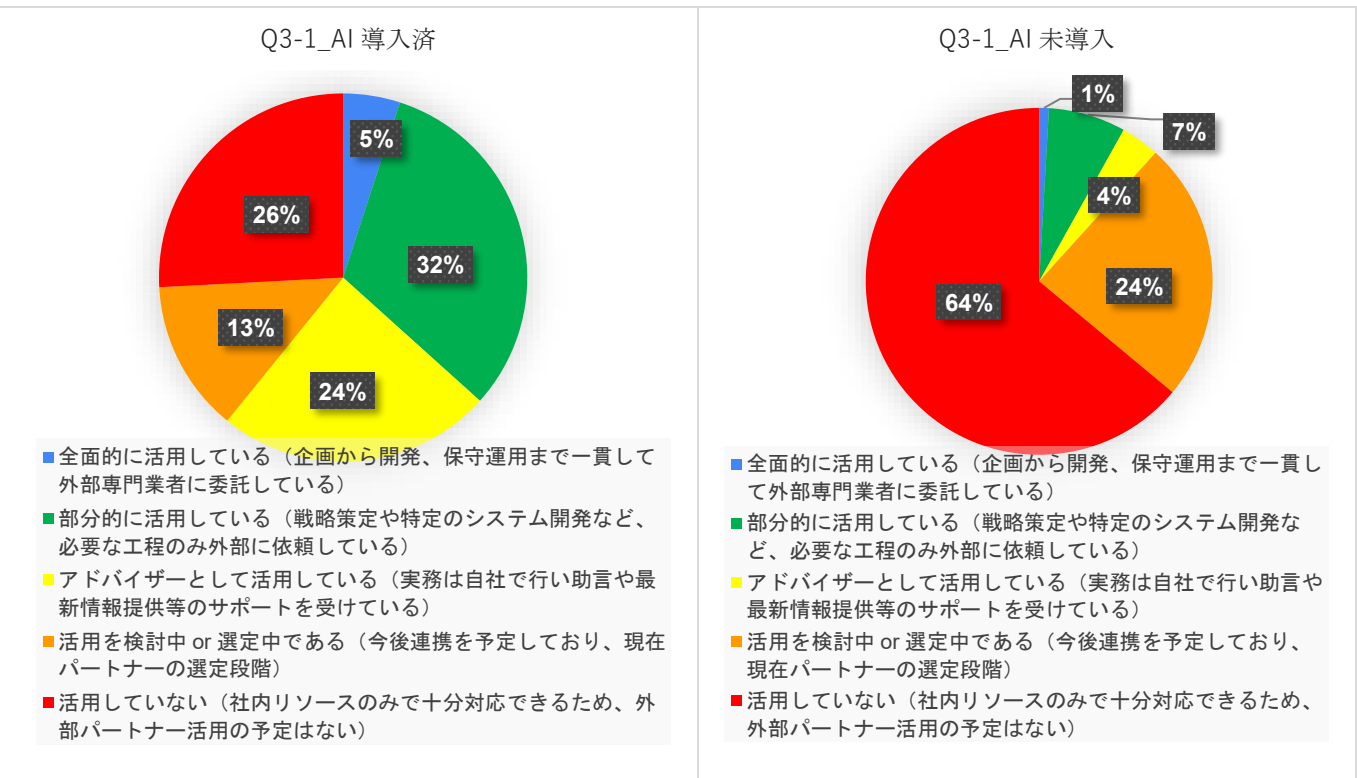
■Q5-1. AI 導入の課題



■Q5-2. AI 人材の充足状況

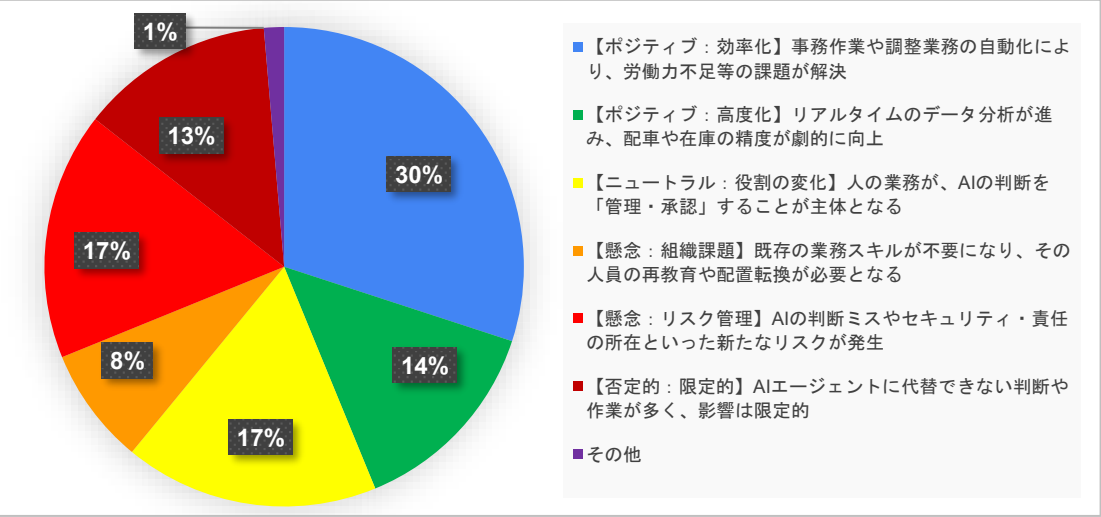


■Q5-3. 外部パートナー活用



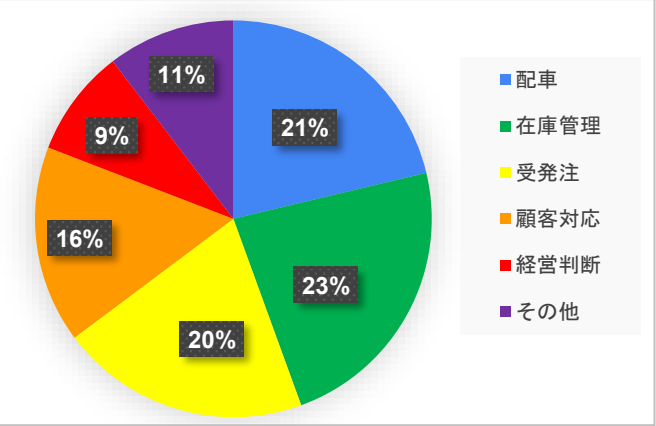
■Q6-1. AI エージェントの影響

複数回答結果（総回答数:443,平均回答数:1.9）



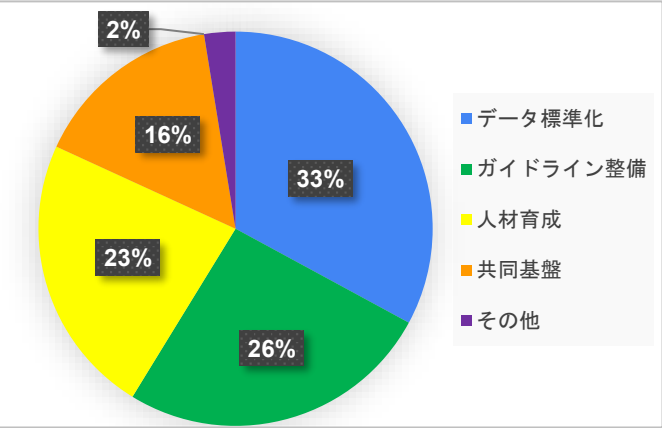
■Q6- 2. AI エージェントで自動化される業務

複数回答結果（総回答数:423,平均回答数:1.8）



■Q 7-1. AI の導入・普及にあたり、物流業界に必要な取り組み

複数回答結果（総回答数:467,平均回答数:2.0）



■Q 7-2. 物流連への期待

複数回答結果（総回答数:450,平均回答数:1.9）

